

生協全体のCO₂排出量を、2020年度に 「2005年度比15%削減」とする計画を策定 ～「全国の生協の温室効果ガス総量削減長期計画」～



日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、会長：浅田克己）は、3月末、全国53生協・事業連合と日本生協連の「温室効果ガス総量削減長期計画」（以下、「総量削減長期計画」）を決定しましたので、ご報告いたします。

■ 2020年度に、生協全体のCO₂排出量を「2005年度比15%削減」します

- ・ 生協全体の2020年度温室効果ガス（CO₂）排出量削減目標の決定にあたり、全国53生協・事業連合と日本生協連の「総量削減長期計画」を集計しました。その結果、生協全体の2020年度CO₂排出量見通しは、2005年度排出量83.8万トンに対し、70.2万トン（2005年比約15%削減）となりました（表1）。
- ・ この集計を基に、日本生協連では全国の生協全体のCO₂排出量を、2020年度に「2005年度比15%削減」することを目標に定めました。
- ・ 集計に当たっては、各生協・事業連合の事業伸長と、各種省エネ対策（表2）の実施時期を考慮しました。例えば、今後の出店や閉店など、事業計画を可能な限り反映させ、不明な場合には2011年度実績をそのまま2020年度の排出量としています。



さまざまな省エネ対策を導入し、全国の生協店舗の中でも、最も省エネ効率に優れた店舗の1つ、コープこうべ・コープ神吉（かんき）（兵庫県加古川市、2010年4月オープン）。



CO₂の排出増とならない、BDF（バイオディーゼル燃料）を使用する、コープさっぽろの宅配配送車。同生協を含め、2012年2月現在、全国で755台が導入されています。

全国の生協では2004年から、事業からのCO₂排出削減を目指し、各生協が「温暖化防止自主行動計画」の策定に取り組んできました。2007年度からは厚生労働省所管団体の中から環境自主行動計画フォローアップの対象に選ばれ、CO₂の排出削減に取り組んでいます。

<お問い合わせ先>

日本生協連 広報部

TEL：03-5778-8106

表 1 全国 53 生協・事業連合と日本生協連の「総量削減長期計画」集計値

単位：万トン

集計年度	2005 年度 実績	2011 年度 実績	2013 年度 見込み	2015 年度 見込み	2017 年度 見込み	2020 年度 見込み
全国計	83.8	79.4	76.1	73.4	72.9	70.2

表 2 部門別・2020 年時点での 2005 年実績からの CO₂ 排出削減量と、主な CO₂ 削減策

単位：万トン

部 門	2005 年度実績 からの削減量	主な CO ₂ 削減策
店 舗	-9.1	東日本大震災以降の節電・省エネ対策をさらに進めます。店舗改装時の照明の LED 化や冷凍機の交換、スクラップ&ビルド、「エコストアコンセプト」※での出店などで削減します。
宅 配	+1.5	施設の省エネや節電対策を進めます。ただし、事業伸長と、お届け時に使用するドライアイスの冷凍蓄冷剤への切り替えによる電力使用量の増加により、2020 年度には 2005 年度より 1.5 万トンの排出量増を想定しています。なお、2020 年までに BDF 使用車や電気自動車を大量導入することは、現時点では想定しづらいため、これによる CO ₂ 削減は見込んでいません。
本 部	-1.7	本部機能の合理化や運用改善、機器の改修、節電などで削減します。
物 流 その他	-1.9	事業の共同化により CO ₂ 排出量の削減を進めます。施設改装時に、照明の LED 化など、設備機器の省エネ対策を推進します。
カーボン オフセット	-2.4	国内クレジット（CO ₂ 排出権）取引により約 2.3 万トン削減、グリーン電力証書で 0.1 万トン削減します。
合 計	-13.6	

※日本生協連と主要店舗生協で策定した、省エネ店舗モデルのこと。現在、省エネ対策をさらに徹底し、売場面積 450 坪で年間使用電力量 100 万 kWh 以下となる店舗の開発を進めています。